

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	特別ゼミ
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位	授業形態	講義		
教科書/教材	解剖学 柔道整復学理論編				
担当教員情報					
担当教員	本澤光則・宮本功三・青木伊之・後藤晃弘・小西裕司			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師
学習目的					
柔道整復師国家試験は柔道整復師としての必要な知識及び技能について、厚生労働大臣が柔道整復師法第10条に基づき行う。柔道整復師の免許を受けるためには、国家試験に合格しなければならず、そのために必要な知識及び技能を修得した者でなければ国家試験を受験することが許されない。この知識及び技能は、3年以上、文部科学大臣の指定した学校、または厚生労働大臣の指定した柔道整復師養成施設において柔道整復師となるのに必要な知識、技能を習得しなければならず、国家試験受験を控えた3年生に対して合格を目的とした試験対策のための特別ゼミを実施するものである。					
到達目標					
国家試験科目は柔道整復師法施行規則第10条により解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科、リハビリテーション医学、柔道整復理論ならびに関係法規と定めている。骨折・脱臼・軟部組織損傷とそれに必要な運動器（骨・筋・関節・靱帯等）ならびに医療従事者に必要な知識を含めた全11科目（250問）について3年間習得した知識を総括するのがこの講義のねらいである。					
教育方法等					
授業概要	国家試験受験の約1か月前から実施をする。全科目について過去の出題傾向から分析した受験対策を進めていく。特に必修問題50問については合格ラインが80％の40点以上が必須であるため、苦手な部分を克服することで受験者全員の国家試験合格を目指すものである。				
注意点	国家試験受験ならびに卒業を間近に控えた医療人としての集中力を求める時間となることから、講義中の私語などについては厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位の履修ができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	頭部の骨・筋について		頭部の骨（15種23個）の分類と名称・数ならびに頭部の筋の起始・停止・作用・神経を理解する。		
2回	体幹の骨・筋について		体幹の骨の分類・名称・数ならびに頸・胸・腹・背各部の筋の起始・停止・作用・神経を理解する。		
3回	上肢の骨・筋について		上肢の骨の分類・名称・数ならびに上肢各筋の起始・停止・作用・神経を理解する。		
4回	下肢の骨・筋について		下肢の骨の分類・名称・数ならびに下肢各筋の起始・停止・作用・神経を理解する。		
5回	骨折の総論について		骨折の分類と症状について理解する。		
6回	脱臼の総論について		脱臼の分類と症状について理解する。		
7回	軟部組織損傷の総論について		関節損傷・筋損傷・腱損傷・末梢神経損傷の分類と症状について理解する。		
8回	上肢の骨折について		上肢帯・上腕・前腕・手の各骨の骨折における発生機序・転位・症状・整復法・固定法を理解する。		
9回	下肢の骨折について		下肢帯・大腿・下腿・足の各骨の骨折における発生機序・転位・症状・整復法・固定法を理解する。		
10回	上肢の脱臼について		上肢の各関節の脱臼における発生機序・症状・合併症・整復法・固定法を理解する。		
11回	下肢の脱臼について		下肢の各関節の脱臼における発生機序・症状・合併症・整復法・固定法を理解する。		
12回	上肢の軟部組織損傷について		上肢の軟部組織に多い損傷の発生機序・症状・検査法・治療法を理解する。		
13回	下肢の軟部組織損傷について		下肢の軟部組織に多い損傷の発生機序・症状・検査法・治療法を理解する。		
14回	医療倫理・保険制度について		柔道整復師に求められる医療倫理と社会保障制度について理解する。		
15回	関係法規について		柔道整復師法と医療関連法規について理解する。		